

# 小諸城跡発掘調査現場公開

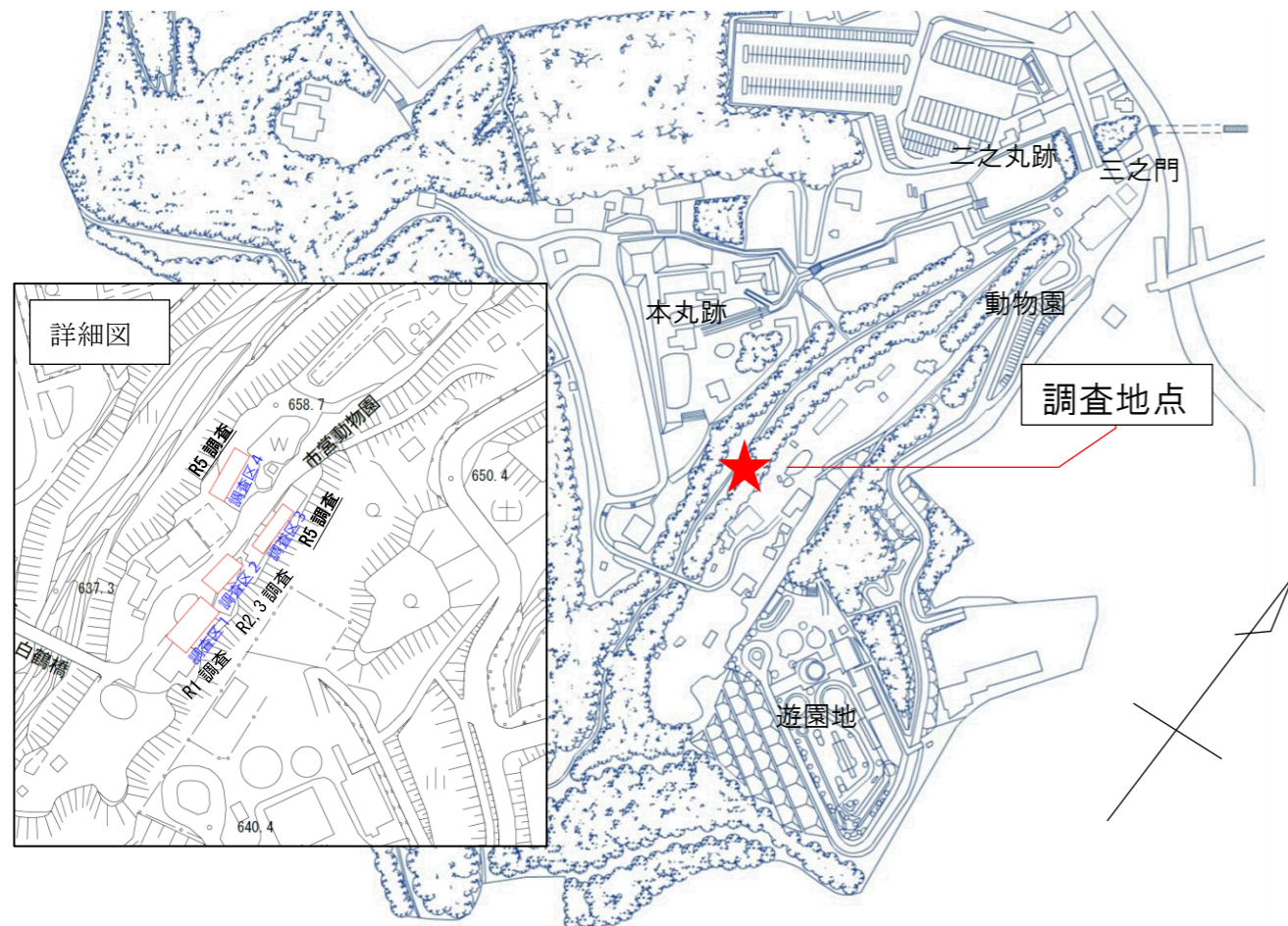
小諸市教育委員会

## 1 はじめに

動物園を含む懐古園は、かつての「小諸城跡」です。また、城域の一部は市名勝「小諸城址懐古園」に指定されております。

小諸市では、現在、動物園再整備事業が進められています。その再整備事業に伴い、小諸市教育委員会は、令和5年度、埋蔵文化財の発掘調査を実施しております。今回の調査では、江戸時代の建物址、奈良時代の建物址、溝址等が発見されました。

小諸城城郭絵図等により、建物址の存在は想定していましたが、発掘調査により実際に建物址を発見したことは、小諸の歴史を理解するうえで非常に重要なことです。



## 2 調査成果

### 発見された主な遺構

建物址(SB1) (江戸) … 1 石列 (江戸) … 1 溝址… 1 建物址(SB2) (奈良) … 1  
柵列… 1 土坑 (縄文時代から近世、もしくは時期不明) … 38

### 主な出土遺物

縄文土器 石器 土師器 須恵器 銭貨 青釉陶器 カワラケ 内耳 鉄製品

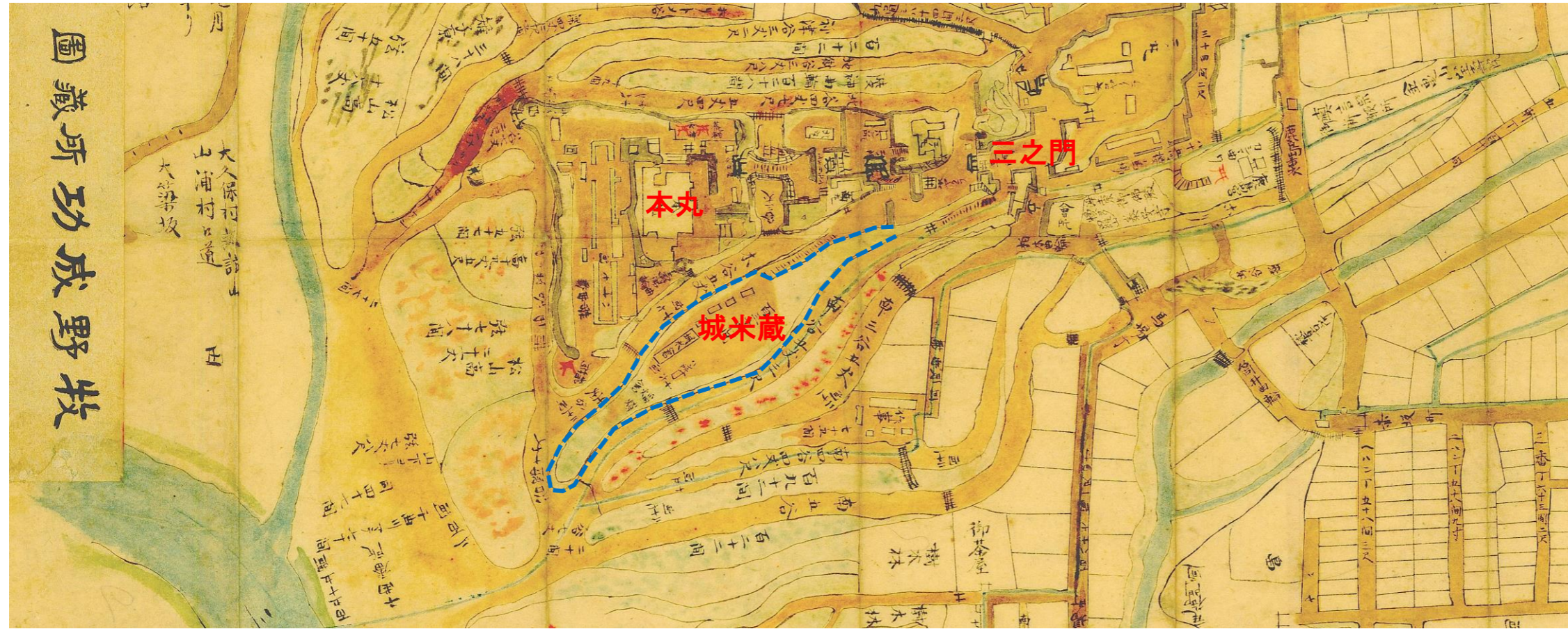


建物址 (SB1)、石列、溝址写真 (フクロウ舎から南 (ライオン舎) 方向)



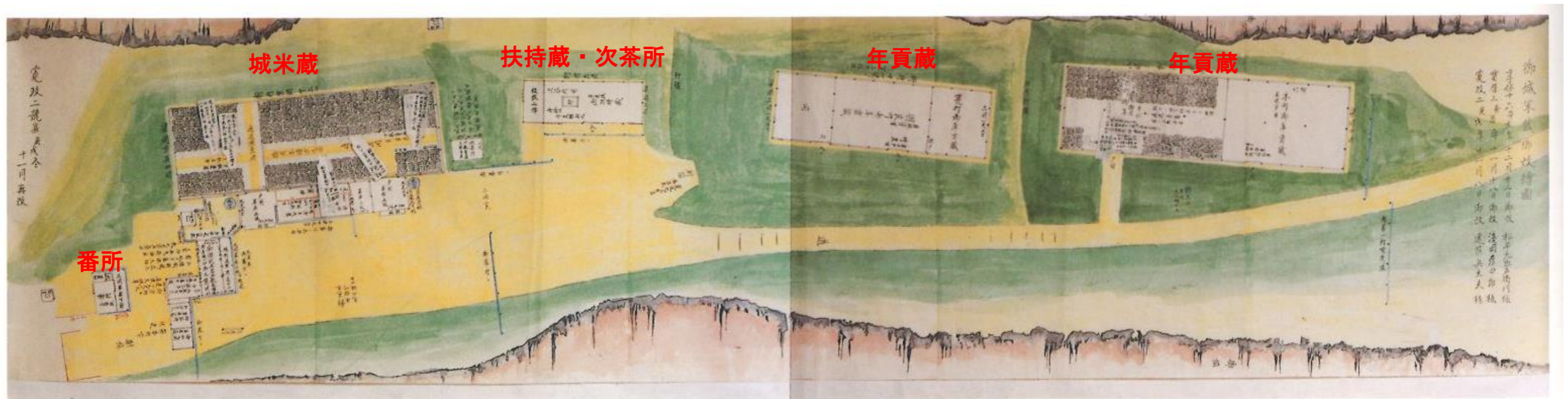
建物址 (SB2)、溝址写真 (本丸跡方向から南 (遊園地) 方向)

3 小諸城絵図



信州小諸之城並曲輪城下之図 延宝2 (1674) 年

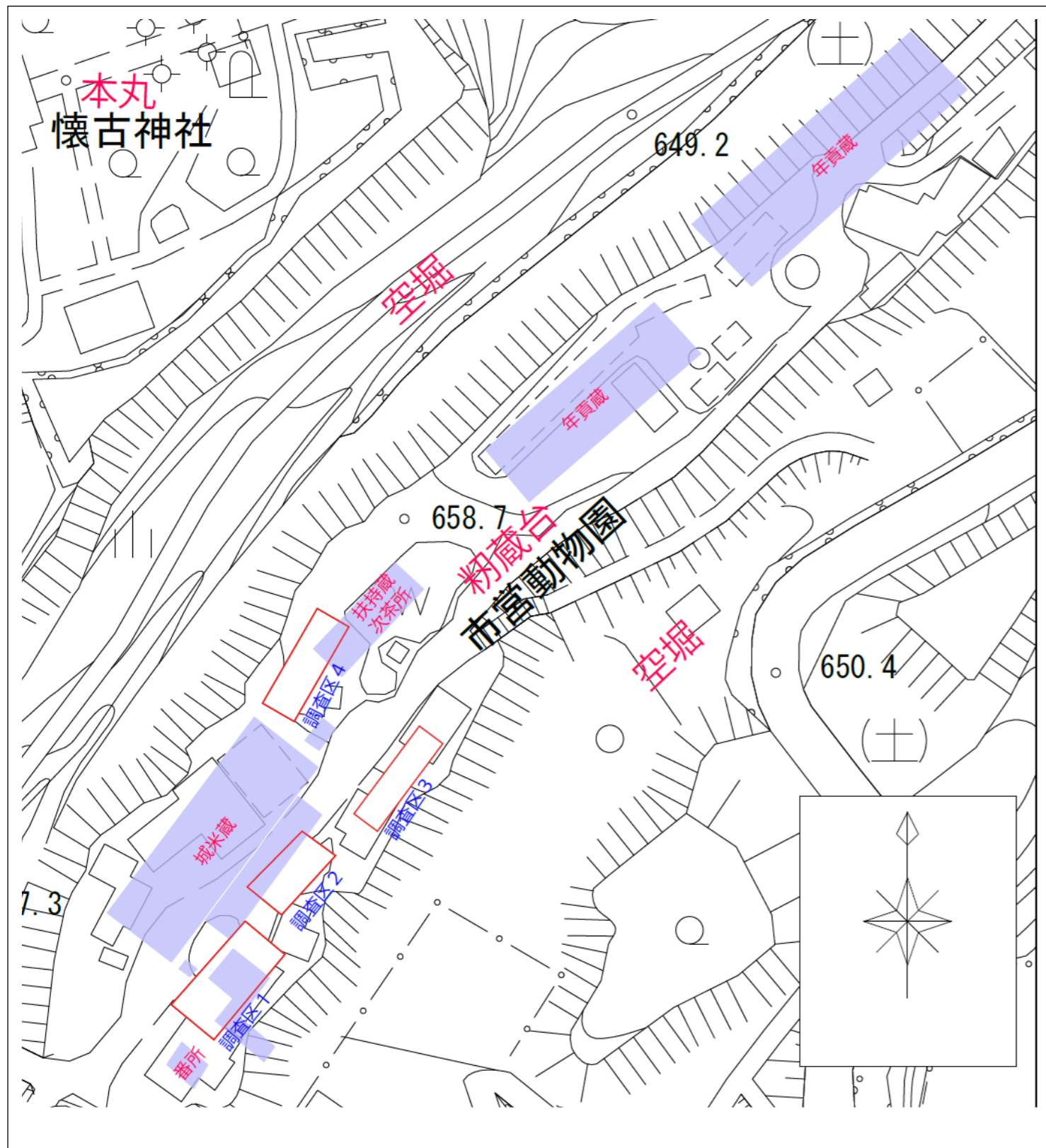
江戸時代、動物園の場所には城米蔵等が置かれていました。



御城米蔵御改絵図 享保16 (1731) 年

本町・市町年貢蔵、荒町・与良年貢蔵、扶持蔵・次茶所、城米蔵、番所等が置かれていました。

#### 4 発掘調査区と小諸城絵図との重ね図



#### 5 発見された遺構について

今回、建物址については2棟（SB1、SB2）発見されました。

SB1については、西側に石列を伴っていました。小諸城絵図と重ねると、扶持蔵・次茶所とほぼ同じくらいの位置で重なることから、SB1については扶持蔵・次茶所の基礎址、石列については雨落である可能性があります。しかし、今回の調査ではSB1の一端が確認されたのみであり、建物全体像の把握には至らなかったため、判断が難しいところです。その検証は今後の課題です。

また、SB2については奈良時代の住居跡となります。これまで、令和元年度における調査区1において古墳時代末期の住居址が確認されています。田切の台地上は古く縄文の時代から居住域として利用されていますので、懐古園が存する台地上も例外なく居住域として利用されていました。

そのほかの遺構（溝址、土坑等）については、今回の調査ではその時代、用途等を判断するには至りませんでした。その検証は今後の課題です。

#### 6 今回発見された遺構の措置について

遺構については、再整備事業の都合により、R6年度まで埋め戻さずそのままとなります。

しばらくは露天展示を行い、来訪者に見ていただけるようにします。

また、一般の方向けの小諸城跡発掘調査現場公開についても、11月頃を予定しています。（詳細は、別途、広報こもろ、SNS等で周知します。）

#### 7 おわりに

現在私たちが見ている小諸城の姿は近世以降に築かれたものですが、今回の調査で今まで絵図でしか知られていなかった江戸時代の建物址等が見つかり、小諸城を理解するための貴重な情報を得ることができました。

なお、本日の現地公開は調査成果をいち早くお知らせするため、十分な検証が行われていない段階での状況報告となります。今後、研究者の助言等を賜りながら更に検証を重ね、遺跡の評価をしていきますが、最終的に今回の発表内容を修正することもありますので、あらかじめご容赦ください。